

2.これまでの調査について

鳥類
平成 15・16 年度 現地調査計画 目的・方法・時期・対象範囲

調査の目的

鳥類については、平成 11 年度～平成 14 年度に湛水予定区域周辺を対象として猛禽類調査(シマフクロウ調査を含む)及び一般鳥類調査を実施しています。この結果、湛水予定区域周辺において、希少猛禽類の営巣地が確認されています。

平成 15 年度・平成 16 年度では、主としてこれらの繁殖状況や土地利用の状況等を把握すると共に、ダム事業による影響を把握する他、一般鳥類調査も実施することとします。

調査の項目・方法

調査対象	調査項目	調査方法
一般鳥類	ラインセンサス	・ 徒歩により調査ラインを踏査し、出現する鳥類の姿及び鳴き声により種を同定し、個体数・確認の種類等を記録する。踏査ラインは森林性・草原性等の環境区分が含まれるように選定する。観察範囲は調査ラインの片側 25m を目安とするが、見通しが良い箇所に関しては適宜広げて観察を行う。調査時期は、繁殖期前期、繁殖期後期、秋の渡り時期、冬期、春の渡り時期の計 5 回、1 回あたり 2 朝を行う。
	定点調査	・ 調査定点にとどまり、双眼鏡または望遠鏡を用いて観察を行い出現する鳥類の記録を行う。観察範囲は、広域に観察できるようにラインセンサス調査地沿いに 1～数箇所の調査定点を設置する。ラインセンサス調査に併せて行う。
	夜間定点調査	・ 調査定点にとどまり、夜間性鳥類の鳴声の聞き取りによる観察を行い出現する鳥類の記録を行う。観察範囲は、定点調査と同じく、ラインセンサス調査地沿いに 1～数箇所の調査定点を設置する。冬期を除き、ラインセンサス調査に併せて行う。
猛禽類	行動圏調査	・ 望遠鏡、双眼鏡により、調査範囲内に出現する猛禽類の飛翔等の行動観察を行い、確認の位置・種類を図面及び野帳に記録する。定点は基本的に各月 9 地点を設置し、定点間での確認状況は随時無線で連絡を取り合い、観察視野を補完しながら行う。
	繁殖状況等確認調査	・ 調査範囲内で確認された希少猛禽類について、繁殖サイクルに応じて、営巣地の利用状況、繁殖状況等の把握を行う。平成 15 年度調査項目は、繁殖状況確認調査、幼鳥鳴声確認調査、営巣木周辺痕跡調査、営巣木確認調査、ハヤブサ調査。
(クマガラ)	営巣可能性木調査	・ 調査エリア内(営巣環境・採餌環境に適したエリア)において毎木調査を実施し、営巣可能な巣穴・採餌痕の確認を行う。調査時期は、繁殖のための活動が活発になり、雪面が安定して痕跡が発見しやすい融雪直前(2～3月頃)とする。
	繁殖確認調査	・ 繁殖期(5～6月)に繁殖利用状況を確認して、営巣木を特定する。
シマフクロウ		・ 痕跡確認、及び夜間の鳴き声確認により実施する。痕跡に関しては、足跡、ペリット、糞等を対象にした。鳴き声確認に関しては、夜間定点調査により実施する。

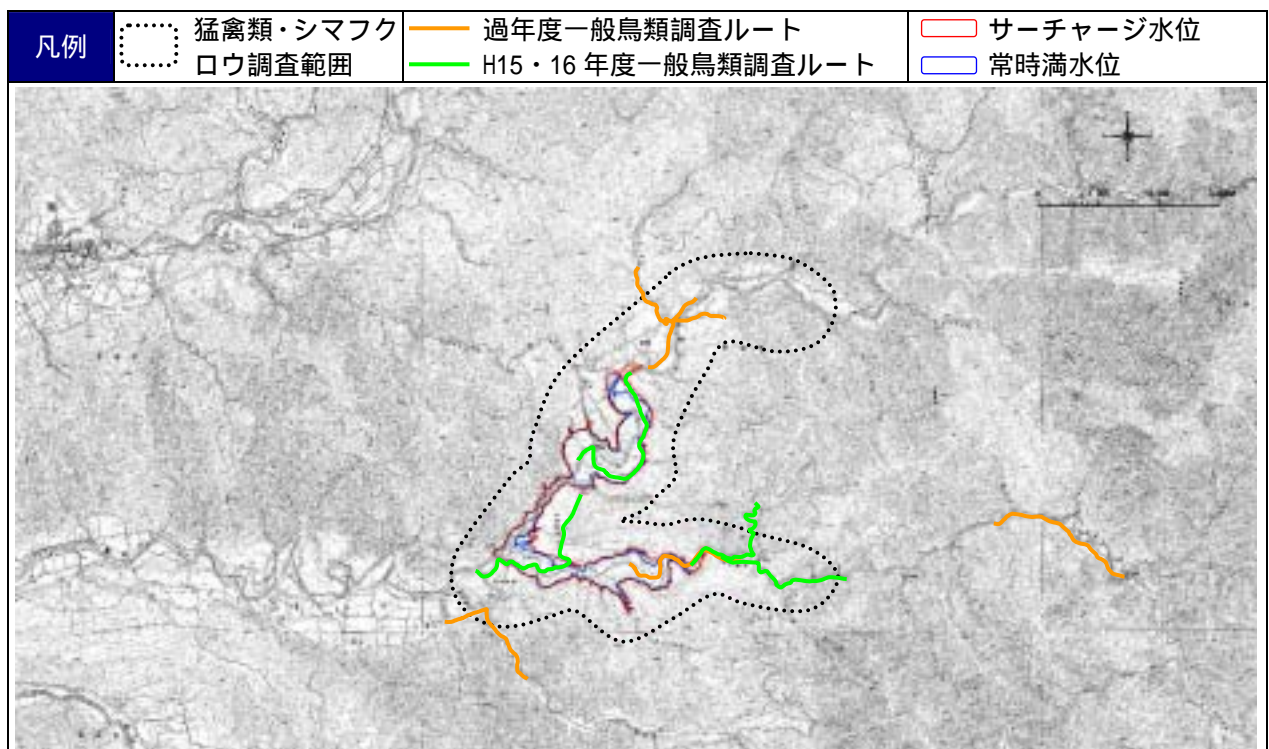
() 内は調査実施を検討中の項目。

調査日程・実施状況

調査対象	調査項目	調査時期	実施状況
一般鳥類	ラインセンサス 定点調査 夜間定点調査	平成 15 年 5 月、 6 月、 10～11 月 平成 16 年 1 月、 3 月下旬～4 月	・ は実施済み
猛禽類	行動圏調査	平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月 毎月 1 回	継続して実施中。9 月以降は 9 6 人工に変更して
	繁殖状況等確認 調査	平成 15 年 4 月～7 月(毎月 1 回) 8 月、 9 月～10 月、 平成 15 年 11 月 及び 12 月(計 2 回)、 平成 16 年 1 月～3 月(計 3 回)	は調査終了。 ～ は台風 10 号影響によ り中止または延期。
過去の調査		平成 11 年 11 月～平成 15 年 3 月 平成 14 年 5、6、10 月	猛禽類調査を実施 一般鳥類調査を実施
		平成 12 年 11 月、平成 13 年 2、6、7 月、 平成 14 年 2 月	シマフクロウ調査を実施

番号は、 調査の項目・方法における調査項目に同じ。

調査対象範囲



過年度及び平成 15 年度調査結果 確認種・重要種

過年度調査 確認種

猛禽類調査に関しては、過年度の調査では 2 科 16 種の猛禽類が確認されました。このうち、着目すべき種としては、1 科 9 種の猛禽類が確認されています。

一般鳥類調査に関しては、調査期間を通して 28 科 75 種の鳥類が確認されました。繁殖期には、アオジ・センダイムシクイ・ヒヨドリなどが、秋にはエナガ・ハシブトガラ・カワラヒワなどが優占しています。

シマフクロウに関しては、痕跡・鳴き声とも確認されませんでした。

H15 年度調査 確認種

猛禽類調査では、2 科 8 種(ハチクマ・トビ・オオタカ・ツミ・ハイタカ・ノスリ・クマタカ・ハヤブサ)の猛禽類が確認されています。これらの内、オオタカ、ハイタカ、クマタカ、ハヤブサに関しては、今年度の繁殖(営巣地)が確認されています。

一般鳥類調査では、繁殖期に 2 回の調査を実施し、30 科 64 種の鳥類が確認されています。優占種としては、アオジ、センダイムシクイ、ヒヨドリなどが挙げられます。

なお、平取ダム予定地で確認された猛禽類の各営巣地は、出水後に落巢・倒木などの直接の影響が無かったことを確認しています。また、出水後の状況については、クマタカは巣立ちを確認していますが、オオタカについては幼鳥の確認が無く、状況は不明です。

着目すべき鳥類(一般鳥類調査にて確認)

平成 14～15 年度に実施した計 5 回の一般鳥類調査において着目すべき鳥類として、以下の 6 科 11 種が確認されています。

科名	種名	H14	H15	環境庁 RDB	北海道 RDB
カモ	オシドリ				希少種
タカ	ミサゴ			準絶滅危惧	絶滅危急種
	ハチクマ			準絶滅危惧	希少種
	オオタカ			絶滅危惧 II 類	絶滅危急種
	ハイタカ			準絶滅危惧	絶滅危急種
	クマタカ			絶滅危惧 IB 類	絶滅危惧種
ライチョウ	エゾライチョウ			情報不足	希少種
シギ	オオジシギ			準絶滅危惧	希少種
ヨタカ	ヨタカ				希少種
キツキ	クマゲラ			絶滅危惧 II 類	絶滅危急種
	オオアカゲラ				留意種
6 科 11 種		5 科 10 種	3 科 3 種		

特記事項

これまで実施されてきた調査により、希少猛禽類の営巣地は 4 種について確認されています。現在、ダム事業の工事等により生息への影響が懸念されることも想定されていることから、保全対策の検討を行っています。

両生類	
平成 15・16 年度 現地調査計画	目的・方法・時期・対象範囲

調査の目的

平成 12 年度に行った調査は、湛水予定区域とその周辺 500m を目安とした範囲内を対象としており、湛水予定区域周辺での両生類相の把握を目的として実施しました。

平成 15・16 年度の調査では、これまで把握されていない湛水予定区域外における両生類の生息状況を明らかにするためにいきます。

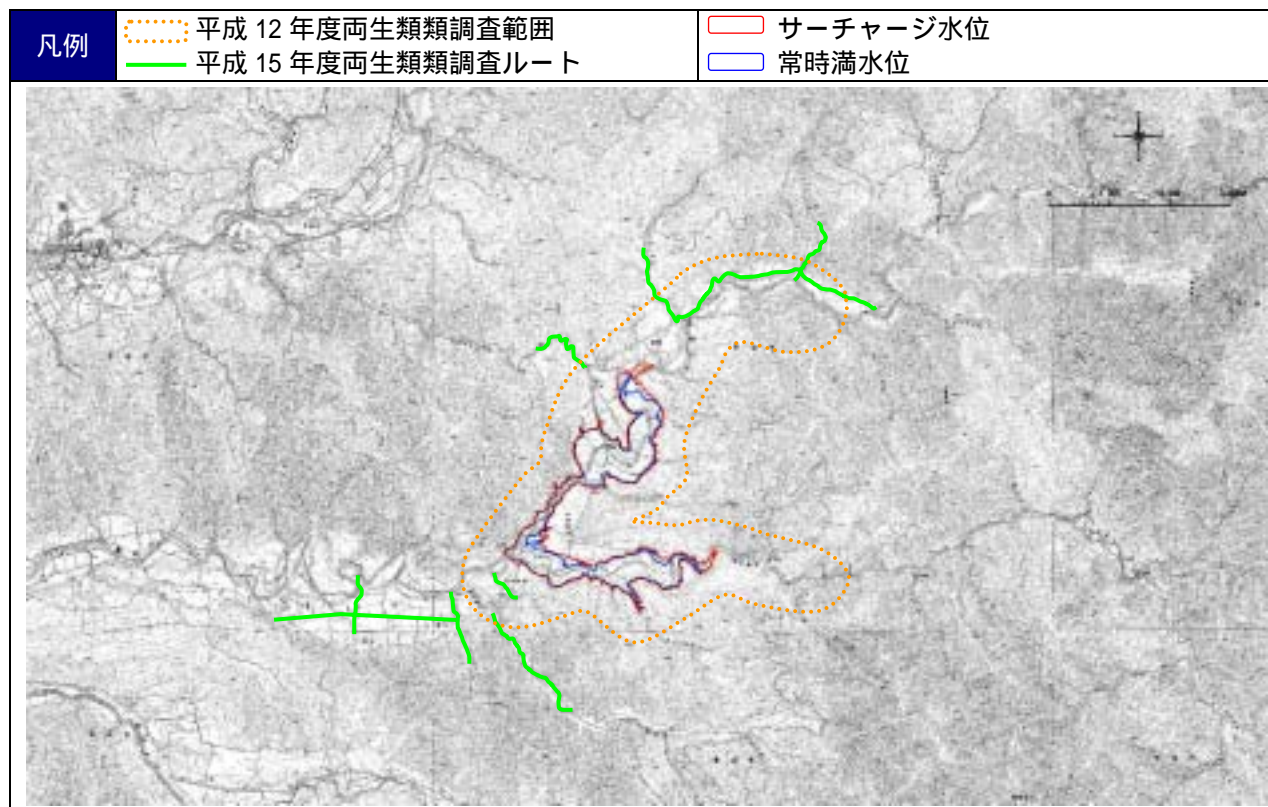
調査の項目・方法

調査項目	調査方法
目視確認調査	両生類の生息が予想される河川・沢地・池沼を現地踏査し、目視あるいは捕獲により確認した両生類について、種名、成長段階(成体・幼生・卵塊)、個体数(卵塊数)及び確認場所の状況を記録する。このほか、夜間の鳴声等の確認記録も行う。

調査日程・実施状況

	調査時期	実施状況
平成 15・16 年度調査	平成 15 年 7 月 3 日～4 日 平成 16 年 4 月下旬～5 月上旬 平成 16 年 6 月中・下旬～7 月上旬	平成 15 年度は 7 月調査のみ終了。
過去の調査	平成 12 年 5 月 8 日～12 日	目視確認調査を実施。

調査の対象範囲



2.これまでの調査について

過年度及び平成 15 年度調査結果 確認種・重要種

H12 年度調査 確認種

平成 12 年度調査の結果、以下の 3 科 3 種が確認されました。

科名	種名
サンショウウオ	エゾサンショウウオ
アマガエル	アマガエル
アカガエル	エゾアカガエル
3 科	3 種

H15 年度調査 確認種

平成 15 年調査(7 月 3～4 日)の結果、平成 12 年の調査と同じく 3 科 3 種が確認されました。

科名	種名
サンショウウオ	エゾサンショウウオ
アマガエル	アマガエル
アカガエル	エゾアカガエル
3 科	3 種

特記事項

平成 12 年度及び平成 15 年度の調査で確認された着目すべき両生類では、北海道レッドデータブックで留意種に指定されているエゾサンショウウオが確認されました。

平取ダム周辺で実施した調査では、平成 12 年度の調査範囲では 46 箇所、平成 15 年度では 17 箇所、幼生・卵塊が確認されています。

エゾサンショウウオは、北海道全域に比較的広く分布が確認されている種で、平野部から山岳部まで広域に生息し、日高山脈や大雪山系の沼地においても確認されています。産卵期は 4～6 月で、冬眠から目覚めた個体は雪解け水の集まる池沼や湖岸に集まり産卵します。

平成 15 年度調査で対象とした湛水予定区域外の地域では、確認数、産卵池の分布、などから、繁殖地として適した環境が広く分布していると考えられます。

ただし、ダム予定地下流側に広がる畑地帯等では、確認が少なく、産卵池となる水環境が乏しいことなどが、その理由と考えられます。

爬虫類

平成 15・16 年度 現地調査計画 目的・方法・時期・対象範囲

調査の目的

爬虫類については、平取ダム予定地周辺において、過去に爬虫類相の把握に関わる調査は行われておりません。

このため、これまで把握されていない湛水予定区域周辺及び湛水予定区域外における、爬虫類の生息状況を明らかにすることを目的としています。

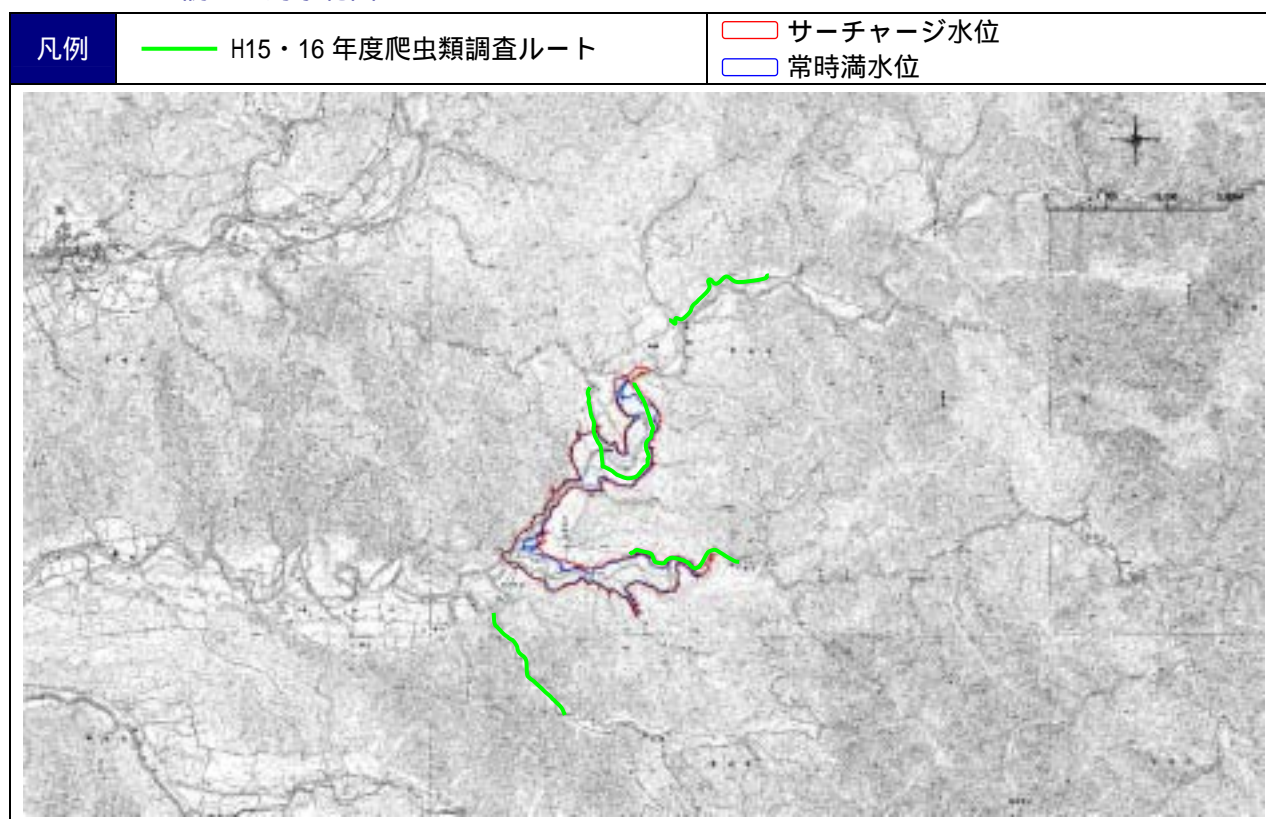
調査の項目・方法

調査項目	調査方法
目視確認調査	<ul style="list-style-type: none"> ・爬虫類の生息が予想される川原に調査ルートを設定、現地踏査を行う。 ・出現した個体等は目視あるいは捕獲を行い、現地で種名、確認数等を確認し、状況や確認地点を記録する。

調査日程・実施状況

調査時期	実施状況
平成 15 年 7 月 平成 15 年 10 月 平成 16 年 4 月下旬～5月上旬	平成 15 年度は 7 月調査のみ終了。 は台風 10 号の影響により中止。

調査の対象範囲



2.これまでの調査について

平成 15 年度調査結果 確認種・重要種

確認種

平成 15 年度の現地調査（7 月 7 日～7 月 9 日）の結果、4 科 5 種の爬虫類が確認されました。

科名	種名
トカゲ	トカゲ
カナヘビ	カナヘビ
ヘビ	シマヘビ
	ジムグリ
クサリヘビ	マムシ
4 科	5 種

特記事項

平成 15 年度の調査では、特に着目すべき爬虫類は確認されませんでした。